

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

一人ひとりの生徒の徳性と自己肯定感を高める普通科高校として、確かな学力を持ち、人と人との繋がりを大切にするとともに、ファシリテーターとして地域社会から愛され、協働して、粘り強く社会で生き抜くことのできる人物を育成する。

- 【1】 新学習指導要領の確実な実施—「確かな学力」の育成と授業改善— 【2】 府立高校の魅力づくりと効果的な情報発信
【3】 専門人材の活用や、地域・大学・企業等との連携の充実

2 中期的目標

1. 新学習指導要領の確実な実施—「確かな学力」の育成と授業改善—

(1) 教員の授業力向上

ア. 新学習指導要領と観点別学習評価の確実な実施に向けて、教員の研鑽の機会を持ち授業力向上を図る。

イ. 校内での授業実践を共有し、学校全体の授業力向上をめざす。

ウ. 入学時より生徒の学力推移を把握し、より効果的な指導方法や指導体制を検討し、実施する。

エ. リーディング GIGA ハイスクールの計画を着実に実行し、ICT を活用した授業力向上を図る。

※生徒授業アンケート（回答ポイント満点 4.0、年2回実施の平均値）

①「授業内に興味・関心を持つことができた（興味関心）」学校平均（R3 3.21：R4 3.26：R5 3.33）⇒令和8年度には3.4をめざす

②「授業を受けて知識や技能が身に付いた（知識技能）」学校平均（R3 3.27：R4 3.32：R5 3.36）⇒令和8年度には3.45をめざす

※学校教育自己診断（生徒）「教え方を工夫している先生が多い」肯定的評価（R3 82%：R4 87.9%：R5 84.4%）

⇒令和8年度まで維持する

※学校教育自己診断（保護者）「子どもは授業が楽しくわかりやすいと言っている」肯定的評価（R3 57%：R4 55.7%：R5 56.3%）

⇒令和8年度には70%をめざす

※学校教育自己診断（教職員）「教員の間で、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている」（R3 77.5%：R4 67.7%：

R5 65.4%）⇒令和8年度には80%をめざす

※学校教育自己診断（生徒・保護者・教職員）「生徒1人1台端末を活用した個別最適で協働的な学びが支援できるように効果的に活用している。」肯定的評価（生徒 R3 78.3%：R4 80.2%：R5 82.8%）（保護者 R4 新規 75.9%：R5 78.8%）

（教職員 R3 84.4%：R4 80.6%：R5 76.9%）

⇒令和8年度には85%をめざす

※授業中における生徒1人1台端末利用率（R5 42%）⇒令和8年度には生徒90%、教員100%をめざす

※長尾 ICT スタンダート達成率（R5 40%）⇒令和8年度には教員100%をめざす

(2) 生徒の進路実現の支援

ア. 生徒の希望する進路の実現に向け、丁寧なガイダンスや面談を実施し、必要な補習・講習・面接練習を行い、多様な入試に対応できるよう支援する。

イ. 3年間を見通した系統的な進路指導を計画・実施する。

ウ. 令和5年度「学校経営推進費」事業による「長尾みらいプロジェクト」において、アクティブラーニンググループを活用した地域探究活動を通じて社会とつながるキャリア教育を行い、その成果を発表する。

※学校教育自己診断（生徒）「進路に必要な情報や考え方をきちんと伝えてくれる」肯定的評価（R3 88%：R4 89.2%：R5 86.3%）

⇒令和8年度まで維持する

※学校教育自己診断（保護者）「将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」肯定的評価（R3 83%：R4 81.1%：R5 78.4%）

⇒令和8年度まで維持する

※学校教育自己診断（教職員）肯定的評価

①「生徒一人ひとりの興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている」（R3 81%：R4 93.5%：

R5 73.1%）⇒令和8年度まで維持する

②「生徒が望ましい勤労観・職業観を持てるよう系統的なキャリア教育を行っている」（R3 71%：R4 60%：R5 61.5%）

⇒令和8年度には75%をめざす

2. 府立高校の魅力づくりと効果的な情報発信

(1) 生徒の徳性と自己肯定感を高められるよう、学校行事、HR 活動、生徒会活動、部活動の充実をめざす。

ア. 活発な生徒会活動及び充実した部活動により、生徒の徳性を育み、自己肯定感を高める。

イ. 「学校生活協議会（わくわく委員会）」の定期的実施を通して生徒・教職員・その他学校関係者が連携し、よりよい学校生活の実現をめざす。

※学校教育自己診断（生徒）肯定的評価

①「生徒会活動は活発である」（R3 82%：R4 85.6%：R5 88%）⇒令和8年度まで維持する

②「学校は部活動に積極的に取り組んでいる」（R3 84%：R4 86.1%：R5 82.4%）⇒令和8年度まで維持する

※学校教育自己診断（保護者）肯定的評価「部活動は活発である」（R3 69%：R4 62.4%：R5 76%）⇒令和8年度まで維持する

※学校教育自己診断（教職員）肯定的評価「学校として、部活動の活性化について工夫している」（R3 78.1%：R4 41.9%：R5 36%）

⇒令和8年度には78%をめざす

(2) 教育相談・支援教育体制を充実させる。

ア. 課題を抱える生徒の早期発見と早期対応につながる体制を作り、きめこまやかな教育相談・支援教育を行う。

イ. 様々な事象に対する速やかで確実な対応ができるよう、SC、SSW、学校医、その他関係機関等との連携を行う。

※学校教育自己診断（生徒）肯定的評価「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」（R3 84%：R4 84.7%：R5 84.2%）

⇒令和8年度まで維持する

※学校教育自己診断（保護者）肯定的評価「子どもの心身の健康について気軽に先生に相談できる」（R3 68%：R4 66.4%：R5 71.2%）

⇒令和8年度には75%をめざす

※学校教育自己診断（教職員）肯定的評価

①「この学校では、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」（R3 68.8%：R4 64.5%：R5 60%）

⇒令和8年度には75%をめざす

②「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる」（R3 78.2%：R4 83.9%：R5 76.9%）

⇒令和8年度まで維持する

※生徒の年間登校遅刻回数（R3 624回：R4 793回：R5 909回）⇒令和8年度まで維持する

(3) 人権教育を充実させ、他人を思いやる豊かな心や人権尊重の精神を育成する。

ア. 学校行事や HR 活動、授業等において人権尊重を意識した活動や SDGs の概念などを用いた教育活動を行う。

イ. 計画的な教職員人権研修を実施し、教育実践に活かす。

<p>※学校教育自己診断（生徒）肯定的評価</p> <p>①「人権の尊重について学ぶ機会がある」（R3 90%：R4 88.4%：R5 81.4%）⇒令和8年度まで維持する</p> <p>②「学校生活についての先生の指導には納得できる」（R3 61%：R4 62.4%：R5 69.3%）⇒令和8年度には75%をめざす</p> <p>※学校教育自己診断（保護者）肯定的評価</p> <p>①「学校は子どもに人権を尊重する意識を育てようとしている」（R3 76%：R4 75.9%：R5 74.5%）⇒令和8年度まで維持する</p> <p>②「学校の生徒指導の方針に共感できる」（R3 65%：R4 63.2%：R5 71.6%）⇒令和8年度には75%をめざす</p> <p>※学校教育自己診断（教職員）肯定的評価「人権尊重に関する様々な課題や指導方法について、全教職員で話し合っ、実践している」（R3 75%：R4 54.8%：R5 46.2%）⇒令和8年度には75%をめざす</p> <p>(4) 近隣教育機関との情報交換や学校ホームページ及びSNSの活用を通じて、本校の魅力を発信する。</p> <p>ア. 学校ホームページ及びSNSを在校生、中学生、保護者、地域のみならず、内容の充実に努める。</p> <p>イ. 近隣の中学校や教育産業と連携しオンラインを含めた情報交換の機会を持つとともに、学校説明会や授業公開などの機会を充実させる。</p> <p>※学校教育自己診断（生徒）（保護者）肯定的評価「学校のホームページを通じて教育情報を得ることができ、学校公式SNSは速報性がある」（質問項目更新）（生徒 R3 37.9%：R4 29.1%：R5 28.1%）⇒令和8年度には60%をめざす （保護者 R3 47.9%：R4 39.9%：R5 37%）⇒令和8年度には60%をめざす</p> <p>3. 専門人材の活用や、地域・大学・企業等との連携の充実</p> <p>(1) 大学、近隣の教育機関、企業、福祉施設、自治体、地域自治組織との連携を深め、地域のファシリテーターとしての素養を身に付ける。</p> <p>ア. 大学等と地域の教育機関との連携を拡充する。</p> <p>イ. 地域の安全や防災について、地域自治組織などと連携して取り組む。</p> <p>ウ. 「長尾みらいプロジェクト」を通じて、地域と連携した教育活動を行う。</p> <p>※学校教育自己診断（生徒）肯定的評価「授業や部活動、学校行事などを通して、地域の人々や他の学校と交流する機会がある」（R3 70.3%：R4 77.9%：R5 76.5%）⇒令和8年度には90%をめざす</p> <p>※学校教育自己診断（保護者）肯定的評価「学校は授業や部活動・学校行事などを通して、地域の人々や他の学校と積極的に交流している」（R4 86.4%：R5 82.2%）⇒令和8年度まで維持する</p> <p>※「総合的な探究の時間」アンケートにおける肯定率[新規]（未確定）⇒令和8年度には80%をめざす。</p> <p>4. 教職員の働き方改革推進</p> <p>(1) 校務へのICT活用を促進させ、全校定時退庁日も活用して教職員一人ひとりの意識改革を行い、勤務時間管理及び健康管理を徹底する。</p> <p>※教員一人平均の月当たり時間外勤務時間（R3 26時間16分：R4 30時間18分：R5 24時間37分） ⇒令和8年度まで維持する</p>
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和6年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>生徒結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校に行くのが楽しい。（肯定的回答 R5 80.8% → R6 80.7%） →ほぼ横ばい。R4 76.8%から比べ上昇を維持している。コロナ対応が変わり、様々な教育活動が再開し、行事や教育活動の充実が要因と考えられる。更に高められるように学校の教育活動全体の見直しを検討していく。 ・他の先生が授業を見学に来ることがある。 （肯定的回答 R5 70.7% → R6 76.3%） →5.6ポイント上昇。R4 62.8%から上昇を維持している。プロジェクトや1人1台端末の導入により、授業について教員が授業方法について変革の意識が上がっていると考えられる。 ・学校生活についての先生の指導は納得できる。 （肯定的回答 R5 69.3% → R6 72.9%） →3.6ポイント上昇。R4 62.4%から上昇を維持している。遅刻指導や服装髪指導などは社会生活を送る上で必要な指導と考えている。指導の趣旨をしっかりと説明し、生徒が納得できるようにすることが重要と思われる。 <p>保護者結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもは学校に行くのを楽しみにしている。 （肯定的回答 R5 78.4% → R6 77.0%） →ほぼ横ばい。R4 75.4%から比べ上昇を維持している。生徒の結果と大きくかけ離れていない。保護者にも生徒の様子が伝わっていると思われる。 ・学校は将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている。 （肯定的回答 R5 71.6% → R6 65.2%） →R4 63.2%、生徒の納得感72.9%から考えると指導についてしっかりと丁寧に説明していかなければならないと考えられる。 <p>教員結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の間で、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている。 （肯定的回答 R5 65.4% → R6 56.3%） →R4 67.7%、下落傾向である。生徒指導等、様々な対応に追われ、教員が自らの授業を見直す時間が減少している。授業力向上委員会等が、教科内で指導方法の検討や教科を超えた授業方法や評価方法について、その重要性を認識し取り組んでいきたい。 ・学校として部活動の活性化について工夫している。 （肯定的回答 R5 36.0% → R6 25.0%） →R4 41.9%、下落傾向が続いている。部活動の在り方をもう一度見直し、持続可能で発展的な方法を模索していきたい。 	<p>第1回（令和6年5月24日開催）</p> <p>◎「学校経営計画」の「めざす学校像」「中期的目標」を<承認></p> <p>●学校経営計画について 委員 GIGA スクールとしてツールの活用で教員の残業削減につなげられるか。 学校 残業削減につなげたいが家庭との連携や部活動を行う教員も多くいるので、削減に結び付いていない。</p> <p>●その他、校長が必要と認める事項 学校 総合的な探究の時間で1年生は演劇、2年生は地域連携、3年生はまとめとして進め、探究的な学びを通して生きる力をはぐくんでいる。 委員 地域連携に関して、コンタクトから発表まで先生の負担を減らしたらよい。成果は非常に良かった。 学校 海外への文化体験ツアーを検討している。 委員 クラウドファンディング等も検討してみたらよい。</p> <p>第2回（令和6年11月8日開催）</p> <p>●教科書選定について 提出資料のと通りの選定について承認</p> <p>●令和6年度学校経営計画の進捗状況に関する意見 委員 HPの充実を図り、長尾高校の良さをもっと発信したら良い。 学校 現在、更新を検討しており、SNS等での発信にも力を入れている。 委員 学校説明会での中学生の感触はどうか。 学校 長尾高校を志望している生徒は例年より多く来てくれていると感じる。 委員 摂南大学との連携とはどのようなものか。 学校 生徒会にコミュニケーションワークを教えてもらい、実際に新入生のオリエンテーション等で活用している。 委員 ボランティアの経験は若い時には必要と思う。地域連携等で積極的に機会を設けてあげてほしい。 学校 生徒会が中心となり、地域の防災訓練や祭りに協力している。今後、参加者を増やしていきたい。 委員 情報端末機器を取り扱う生徒への情報リテラシー教育が必要である。福祉で孤立する家庭が多く、ICTでもつながれるようになってほしい。 学校 情報端末機器の取り扱いだけでなく、個人情報の保護や人権的な配慮等についても教育を進めていきたい。</p> <p>第3回（令和7年2月14日開催）</p> <p>●学校評価自己診断について 委員 図書館にPTAと後援会で畳とソファを購入したが、利用率がさがっているのはなぜか。 学校 開館時間は変わっていないが、本についての認識が下がっている。読書マラソン等も実施して後押しはしている。 委員 活字離れがいわれて久しいが、活字を読み、文章に触れることが重要と考えるので様々な取組を継続してほしい。</p>

府立長尾高等学校

	<p>委員 部活動の取組みについて生徒は数値高いが、教員は低いのはなぜか。</p> <p>学校 生徒は活動意欲があって入部しているが、教員は部活動ガイドラインや働き方改革などの関係で活性化の工夫ができていないと感じている。</p> <p>委員 ホームページの閲覧が低いようだが、SNS でアピールする必要があるのではないか、生徒から企画を進めていくのはどうか。</p> <p>学校 SNS は端末の調達を含めて進めている。ホームページもフォーマットからの変更を進める予定。</p> <p>◎令和7年度学校経営計画 → 「めざす学校像」と「中期的目標」を承認</p>
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5年度値]	自己評価
1. 新学習指導要領の確実な実施―「確かな学力」の育成と授業改善	(1) 教員の授業力向上 ア. 教員個々の授業力向上	(1) ア. 研修等の成果を共有し、授業の実施方法や評価方法の検討などの教員研修を行う。 ・経験年数の少ない教員を対象とした勉強会を定期的に実施する。 ・校外の公開授業、研修、学校視察を行う。	(1) ア. 【生徒授業アンケート】 ①興味関心 3.38[3.33] ②知識技能 3.4[3.36] ・【自己診断】 (生徒)「教え方を工夫している先生が多い」85%[84.4%] ・【自己診断】(保護者)「子どもは授業が楽しくわかりやすいと言っている」60%[56.3%] ・【自己診断】(教職員)「教員の間で、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている」70%[65.4%] ・【自己診断】(生徒)(保護者)(教職員) 「生徒1人1台端末を活用した個別最適で協働的な学びが支援できるように効果的に活用している」 (生徒) 83%[82.8%] (保護者) 80%[78.8%] (教職員) 80%[76.9%] ・経験年数の少ない教員対象勉強会を各学期2回実施[各学期2回実施] ・校外の公開授業、研修または学校視察を行いその成果を職員研修の一環として全教職員で共有する。3回以上[4回]	(1) ア. 【生徒授業アンケート】 ①興味関心 3.32 (△) ②知識技能 3.35 (△) ・【自己診断】(生徒) 83.6% (△) ・【自己診断】(保護者) 50.4% (△) ・【自己診断】(教職員) 56.3% (△) ・【自己診断】 (生徒) 85.1% (○) (保護者) 71.1% (△) (教職員) 56.3% (△) ・勉強会を各学期2回実施 (○) ・教職員で共有 3回 (○)
	イ. 校内での授業実践共有 ウ. 生徒の学力把握に基づく指導 エ. ICTを活用した授業力向上	イ. 校内研修を組織的に実施できるように体制を整え、校内の授業見学・研究授業を実施し意見交換を行う。 ウ. 学力生活実態調査などの結果を分析し、特に課題のある生徒への組織的な指導方法を検討して実施する。 エ. GIGA スクール推進委員会が中心となり、令和5年度研究計画を推進する。	イ. 校内の授業見学等および意見交換を2回以上[2回] ウ. 学力生活実態調査等の結果と分析と組織的指導の方向性を全教職員で共有2回以上[2回] エ. 授業中における生徒1人1台端末活用 50%[42%] ・長尾 ICT スタンダード達成率 50%[40%]	イ. 校内の授業見学等および意見交換を2回実施 (○) ウ. 全教職員で共有 2回 (○) エ. 45% (○) 目標には達していないが前年度を上回った。 ・89% (◎)
(2) 生徒の進路実現の支援	(2) ア. 各学年と進路指導部が連携して、生徒の進路希望について丁寧なガイダンス及び面接を通じて、希望に応じた補習・講習・面接練習・各種検定試験の受験を計画して実施する。	(2) ア. 【自己診断】(生徒)「進路に必要な情報や考え方をきちんと伝えてくれる」88%[86.3%] ・【自己診断】(保護者)「将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」80%[78.4%] ・【自己診断】(教職員)「生徒一人ひとりの興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている」80%[73.1%] ・各種検定試験受験者数を維持する。 英検 84名以上[84名] 数検 21名以上[21名] 情報処理関係 66名以上[66名]	(2) ア. 【自己診断】(生徒) 86.6% (○) 目標には達していないが前年度を上回った。 ・【自己診断】(保護者) 78.3% (△) ・【自己診断】(教職員) 81.3% (◎) ・各種検定試験受験者数を維持 英検 30名 (△) 数検 14名 (△) 情報処理関係 35名 (△)	
イ. 表現力の向上と系統的なキャリア教育を実施	イ. 学校設定科目「思考の扉を開く」により3年間継続した表現力を育成するとともに、「長尾みらいプロジェクト」によるキャリア教育を実践し、各学年の進路担当者が中心に、3年間を見通して系統的な進路計画を再検討し策定し実施する。	イ. 本校主催の学習成果発表会や外部機関主催発表会で学習成果を発表する3回以上[3回] ・前年度に作成した3年間を見通した系統的な進路計画の着実な実施。 ・【自己診断】(教職員)「生徒が望ましい勤労観・職業観を持てるよう系統的なキャリア教育を行っている」65%[61.5%]	イ. 学習成果発表 3回 (○) ・計画通り実施 (○) ・【自己診断】(教職員) 67.7% (○)	

府立長尾高等学校

<p>2. 府立高校の魅力づくりと効率的な情報発信</p>	<p>(1) 生徒の徳性と自己肯定感を高める。 ア. 活発な生徒会活動及び部活動の実施。</p> <p>イ. 学校生活協議会の定期的な開催。</p> <p>(2) 教育相談・支援教育体制の充実 ア. きめ細やかな教育相談・支援教育。</p> <p>イ. 関係機関との連携</p> <p>(3) 人権教育の充実 ア. 人権尊重を意識した教育活動</p> <p>イ. 計画的な教職員人権研修</p> <p>(4) SNSなどを活用した近隣教育機関等との連携と情報発信 ア. 学校ホームページとSNSの内容充実</p>	<p>(1) ア. 生徒会が主体となって新入生対象「フレッシュマンキャンプ」や各種学校行事を部活動と連携して運営し、生徒会活動や部活動を活発に行う。</p> <p>イ. 学校生活協議会を定期的で開催し、生徒が主体的に考えた学校生活について教職員やその他学校関係者と話し合い、自分と相手を尊重した自己表現を実践する。</p> <p>(2) ア. 生徒支援委員会を中心に、生徒理解を深めて生徒指導に活かせる教職員研修の実施と定期的な生徒支援会議及びいじめ対応委員会の開催。</p> <p>イ. 事象発生時における関係教職員によるケース会議の早期実施と専門家や外部関係機関との連携。</p> <p>(3) ア. 総合的な探究の時間や学校行事、HR活動、授業等あらゆる場面においてSDGsの概念などを用いた人権教育計画を作成し実践する。</p> <p>イ. 計画的な教職員人権研修を行う。</p> <p>(4) ア. 学校ホームページを在校生、保護者、その他外部への情報発信ツールとし、学校公式SNSを活用した速報的な情報発信を行う。</p>	<p>(1) ア. 【自己診断】(生徒) ①「生徒会活動は活発である」88%以上[88%] ②「学校は部活動に積極的に取り組んでいる」82.4%以上[82.4%] ・【自己診断】(保護者)「部活動は活発である」76%以上[76%] ・【自己診断】(教職員)「学校として、部活動の活性化について工夫している」50%[36%]</p> <p>イ. 学校生活協議会3回実施[2回]</p> <p>(2) ア. 【自己診断】(生徒) ①「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」84.2%以上[84.2%] ②「学校生活についての先生の指導には納得できる」73%[69.3%] ・【自己診断】(保護者) ①「子どもの心身の健康について気軽に先生に相談できる」73%[71.2%] ②「学校の生徒指導の方針に共感できる」73%[71.6%] ・【自己診断】(教職員) 「この学校では、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導をおこなっている」70%[60%] ・生徒支援委員会といじめ対応委員会を定期的で開催。月1回[生徒支援委員会は月1回：いじめ対応委員会は事象発生時3回] ・生徒理解を深める教職員研修2回以上[2回]</p> <p>イ. 【自己診断】(教職員) 「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる」80%[76.9%] ・SCと教員のコンサルテーション月1回[月1回] ・SCやSSWや外部関係機関によるコンサルテーションやケース会議 年1回以上[SC2回、SSW1回、外部機関とのケース会議3回]</p> <p>(3) ア. 【自己診断】(生徒) 「人権の尊重について学ぶ機会がある」90%[81.4%] ・【自己診断】(保護者) 「学校は子どもに人権を尊重する意識を育てようとしている」78%[74.5%] ・【自己診断】(教職員)「人権尊重に関する様々な課題や指導方法について、全教職員で話し合っ、実践している」50%[46.2%] ・人権教育推進委員会による年間人権教育計画の着実な実施</p> <p>イ. 教職員人権研修3回以上[3回]</p> <p>(4) ア. 【自己診断】(生徒)(保護者)「学校のホームページを通じて教育情報を得ることができ、学校公式SNSは速報性がある。」生徒40%[28.1%]保護者50%[37%]</p>	<p>(1) ア. 【自己診断】(生徒) ①84.4% (△) ②82.9% (○) ・【自己診断】(保護者)65.6% (△) ・【自己診断】(教職員)25.0% (△)</p> <p>イ. 学校生活協議会2回実施(△)</p> <p>(2) ア. 【自己診断】(生徒) ①86.0% (○) ②72.9% (○) 目標には達していないが前年度を上回った。 ・【自己診断】(保護者)①64.3% (△) ②65.2% (△) ・【自己診断】(教職員)65.6% (○) 目標には達していないが前年度を上回った。 ・生徒支援委員会を定期的に月1回開催 (○) ・生徒理解を深める教職員研修2回 (○)</p> <p>イ. 【自己診断】(教職員)78.1% (○) 目標には達していないが前年度を上回った。 ・SCと教員のコンサルテーション月1回開催 (○) ・SCやSSWや外部関係機関によるコンサルテーションを1回開催 (○)</p> <p>(3) ア. 【自己診断】(生徒)85.7% (○) 目標には達していないが前年度を上回った。 ・【自己診断】(保護者)66.8% (△) ・【自己診断】(教職員)31.3% (△) ・年間人権教育計画を実施 (○)</p> <p>イ. 教職員人権研修3回 (○)</p> <p>(4) ア. 【自己診断】(生徒)34.7% (○) 目標には達していないが前年度を上回った。 (保護者)31.6% (△)</p>
-------------------------------	--	---	--	--

府立長尾高等学校

	イ. 近隣中学校や教育産業と連携した情報交換会や学校説明会の実施	イ. オンラインを含めた近隣中学校や教育産業との情報交換や学校説明会を実施する。	イ. 近隣中学校や教育産業との情報交換2回以上[2回] ・校内の学校説明会実施3回以上[5回] ・校外の学校説明会参加5回以上[7回]	イ. 情報交換3回(◎) ・校内 5回(◎) ・校外 7回(◎)
3. 専門人材の活用や、地域・大学の充実に の充実	(1) 大学、近隣の教育機関、企業、福祉施設、自治体、地域自治組織との連携	(1) ア. 高大連携による国際交流や教職員研修の実施及び近隣の教育機関と連携した教育活動実施 イ. 地域の交通安全指導や防災活動への参加 ウ. 「長尾みらいプロジェクト」を通じて、地域と連携した教育活動の実施。	(1) ア. 高大連携の実施3回以上[3回] ・近隣の教育機関と連携した教育活動1回以上[1回] イ. 地域防災訓練への参加1回以上[1回] ・交通安全指導実施2回以上[2回] ウ. 【自己診断】(生徒)「授業や部活動、学校行事などを通して、地域の人々や他の学校と交流する機会がある」80%[76.5%] ・【自己診断】(保護者)「学校は授業や部活動・学校行事などを通して、地域の人々や他の学校と積極的に交流している」82.2%以上[82.2%]	(1) ア. 高大連携 3回(○) ・近隣の教育機関と連携1回(○) イ. 地域防災訓練への参加2回(◎) ・交通安全指導実施2回(○) ウ. 【自己診断】(生徒)76.6%(○) 目標には達していないが前年度を上回った。 ・【自己診断】(保護者)73.4%(△)
4. 教職員の働き方改革	(1) 教職員の勤務時間に関する意識改革と業務の効率化	(1) ・校務へのICT活用促進や全校定時退庁日を徹底する。また、部活動方針を遵守し、活動時間、指導時間等の見直しを行い、教職員の長時間勤務を縮減する。 ・課題に応じた委員会を立ち上げ、学校組織体制の見直し・運営などの改善を図る。	(1) 教員一人平均の月当たり時間外勤務時間24時間[24時間37分]	(1) 教員一人平均の月当たり時間外勤務時間30時間24分(△)